
肩車

塚越広治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

肩車

【Nコード】

N6860K

【作者名】

塚越広治

【あらすじ】

自分を捨てた父親を、幼い娘は優しく迎え入れました。

貧相な中年の男が少女の前にしゃがみ込んで、口ごもりそうになる口をやっと開いて言った。

「ほらつよ、」

不器用な手つきで差し出したのは桃色のリボンのついた小さな箱。

（俺を恨んでいるだろう、）

男にとって5年前に捨てた幼い娘に会うために、クリスマスというイベントと、

自分に恨み言を吐くはずの娘と話のきっかけになるプレゼントが必要だった。

9歳に成長した少女は黙ったまま、手にしたプレゼントと男の顔を見比べた。

小首をかしげて訳も分からず不思議そうな様子である。

（俺のような父親は忘れられても仕方がない……）

男が自嘲的にそう思ったとき、

少女は男の背にくるりと回って男の首に細い腕を回した。

（あつ、）

伝わる暖かさと共に男に蘇る記憶がある。

それは幼児の頃の娘が父に肩車をねだったときの仕草である。

男は少女を抱き上げて、そっと肩に乗せて立ち上がった。

（お父さん……）

言葉に出せない戸惑いの思いが少女の微笑からにじみ出している。

クリスマスの街は灯と喧噪取り戻して、二人を父娘として包み込んだ。

ただ、その街の灯がきらきらと煌めくのは、父親の涙のせいである。

（後書き）

現在無くなってしまったthebbsという掲示板で、いろいろな方々が集まって三題噺のラリーをしていました。

<http://literature.bbs.thebbs.jp/1155949700/e100>

その時に「肩」、「涙」、「クリスマス」というお題をもとに、投稿させてもらったものです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6860k/>

肩車

2011年10月6日19時35分発行